



# ソウル駐在員通信

vol.17

クレアソウル事務所 所長補佐 菊池さやか

アンニョンハセヨ！（一財）自治体国際化協会ソウル事務所（通称：CLAIR, Seoul（クレアソウル））に派遣されている、菊池さやかと申します。今回は、私が携わった業務の紹介をメインにお伝えするとともに、韓国の今を知っていただくため、現地メディアの注目の時事をご紹介します！

## ■ 「第12回 日韓交流スピーチ大会」を実施！

8月6日（土）、在大韓民国日本国大使館公報文化院のホールにて、「第12回 日韓交流スピーチ大会」を実施しました。94名の応募者の中から、19名（韓国人14名、日本人5名）が本選に進出し、韓国人は日本語で、日本人は韓国語で、互いの国の魅力や文化の違いなどについて率直にスピーチを交わしました。

### 「日韓交流スピーチ大会」の始まり・目的

このイベントは、JETプログラム（The Japan Exchange and Teaching Programme: 語学指導等を行う外国青年招致事業）<sup>1</sup>参加者の同窓会組織であるJETAA（JET Alumni Association）の大韓民国支部<sup>2</sup>、在大韓民国日本国大使館及びクレアソウルが共催して実施しているイベントです。

JETプログラムに参加し、外国語指導助手（ALT: Assistant Language Teacher）<sup>3</sup>、国際交流員（CIR: Coordinator for International Relations）<sup>4</sup>、スポーツ国際交流員（SEA: Sports Exchange Advisor）<sup>5</sup>として日本の自治体で1～5年間働いた後、韓国に帰国してからも日韓交流の架け橋としてあり続けたいとするJETAA大韓民国支部メンバーの思いから、日韓友情年である2006年にスタートしました。参加者に制限はなく、日本人と韓国人が互いの言語で互いの思いや体験等をスピーチすることで、両国の相互理解を深めることを目的に毎年開催し、今年12回目を迎えました。

<sup>1</sup> 日本の自治体の国際化を推進するため、30年間続いている世界最大規模の人的交流事業。総務省、外務省、文部科学省、自治体国際化協会の協力の下、日本の自治体が、外国語指導や国際交流業務等に従事する海外の青年を受け入れている。2016年度は、40カ国より4,952名参加（うち韓国人は56名）しており、30年間の参加延べ人数は65カ国から64,000名以上（うち韓国人は400名以上）となっている。

<sup>2</sup> 日本とJETプログラム参加諸国との、持続的な国際交流活動に取り組んでいる。会員数は15の国と地域に渡る52支部26,000名以上（うち韓国人は300名以上）となっている。

<sup>3</sup> 小学校・中学校や高等学校で語学指導に従事。

<sup>4</sup> 地域において国際交流活動に従事。韓国人JET参加者に最も多いのがこの職種。

<sup>5</sup> 地域においてスポーツを通じた国際交流活動に従事。

## 「第12回 日韓交流スピーチ大会」の様子

冒頭でも触れましたが、第12回大会では、94名の応募者の中から予選審査（書類審査）を経て選ばれた19名が本選に出場しました。

本番前の出場者控室には、真剣な面持ちでスピーチの練習をする出場者たちの姿が。本番が始まると、司会者のアナウンスに従って順番にステージに上がって行きます。出場者たちは約3分間のスピーチの中でいかに自分の伝えたいことを審査員や観客の心に訴えかけるかに趣向を凝らし、歌を取り入れたり、小道具なども駆使したりしながら、それぞれ個性ある魅力的なスピーチを披露してくれました。



写真を使って！



思い出の品  
を使って！



審査は、6名の審査員が、そのスピーチの内容（流れ・メッセージ性・日韓友好との関連性など）、流暢さ（発音・イントネーション・内容の暗記程度など）、発表力（発表する際の態度・声量など）の他、コミュニケーション力やパフォーマンス力などの審査基準に則り評価し、受賞者を決定します。今回出場した19名のうち、入賞者は下表の8名となりました。

賞名	受賞者	タイトル
最優秀賞	キム・ウィジョン	マナミ姉さんがくれた忘れられない思い出
公報文化院賞	キム・ミンジョン	話さなくても分かるよ
	イ・ヒョンス	伝える
優秀賞	♂田 祐奈	青少年の役割
JET プログラム 30周年特別賞	キム・ヨンジュ	子どもの頃、私のヒーロー

日韓友情賞	ソン・ハンピッ	旅行で出会った、ちょっと特別な友達
未来賞	クォン・チェリム	生き写しのふたり
人気賞	山極 尊子	日韓の架け橋「小さな宿」のお話

審査員から、「どのスピーチも心に響く内容で、もっと聞きたいと思うほどだった」との講評があったように、3分間がとても短く感じるほど魅力的なスピーチの数々でした。



### 日本人入賞者を PICK UP !

数少ない日本人出場者の中で見事入賞を果たしたお二方をご紹介します。

#### 優秀賞 <sup>しめた ゆうな</sup> 田 祐奈さん

韓国に興味を持ったのは、中学3年生の時にハマった K-POP の影響。その後高校2年生から本格的に韓国語の勉強を始め、大学では第2外国語として韓国語を専攻。本スピーチ大会については、昨年インターネットを通じて知り、11回大会に応募したものの、本選進出は果たせませんでした。2度目の挑戦となった今年、念願の本選進出を果たし、「青少年の役割」と題して日韓両国の間に存在する複雑でデリケートな歴史問題や、近年、両国間において報道されているお互いのニュースには否定的なものが多いという事実に触れ、そのような「ネガティブなニュースに惑わされることなく、自分の目で、耳で、体全体で感じたことを頼りに、たくさんの物事の中か



ら真実を見つめてほしい。」と訴えました。そして「お互いがお互いに近づくための努力、つまり、お互いがお互いについて理解しようと努力することが一番重要であり、結果として意見が合わない部分もあるかもしれないが、その分、今まで知らなかったお互いのいいところや新しい発見など、沢山のことを見つけられる。そのように発見したお互いの長所をどんどん大きく発展させていくことができれば、私達にとってより良い未来を見つけられると信じている。」毅然とした眼差しで堂々と主張する彼女のスピーチは審査員の高い評価を受け、見事優秀賞を授賞。今後の展望を伺うと、今後も日韓交流にまつわる様々なプログラムへのチャレンジを続けて行きたい、と力強く語ってくれました。

### 人気賞 やまぎわ たかこ 山極 尊子さん

大学2年生の時、韓国留学を経験し、帰国して大学を卒業した後、韓国国民銀行東京支店で5年間窓口業務を担当。自分にしかできない何かを見つけたい!との思いから、韓国の大学院(修士)などへも進学した経歴を持つ。スピーチのテーマとなった自身経営の文化交流宿は、1年前に韓国人の友人に誘われ、旅行だけでは分からない韓国の魅力を日本から来たお客さんに紹介し、文化交流することを目的にオープン。韓国の伝統家屋である韓屋をリフォームして作ったお宿では、お客さんと山極さんが韓国で出会った友人たちがおしゃべりを楽しんだり、一緒に料理を作ったり、日本語や韓国語を教え合ったり、散歩をしたりと、民間レベルの交流が息づいています。その様子を、写真を用いて楽しげに紹介したスピーチは観客の心を惹きつけ、観客の人気投票によって決定される人気賞を授賞。文化交流宿の他にも、韓国において絵本を2冊出版し、子どもたちへの読み聞かせを行ったり、友人を集めてパーティーをしたり、障害者施設でボランティアをしたり、これまでの経験を活かしてコラムを書いたりと様々な草の根活動を展開されており、出産を控えて日本に帰国することになったが、日本に帰っても、日韓友好のために自分にできることを続けて行きたい、と笑顔を見せてくれました。



### 終わりに

大会中、JETAA 大韓民国支部の役員をはじめとするスタッフも参加者も皆、日韓交流という目的のもと真剣に取り組む様子を目の当たりにし、胸が熱くなりました。日本と韓国との間には様々な懸案はありますが、参加者たちは隣国として興味を持ち、相手国の言語や文化を学び、相互理解を深めてきた経験を持っています。そのようにして身を持

って感じたこと、考えたことを言葉に乗せて聴衆に伝えるこの行事は、日韓の友好関係を草の根で育むために非常に有益と考えています。しかしながら、韓国人の参加者に比べ、日本人の参加者が増えないことが悩みでもあります。今後、もっと広報に力を入れて多くの日本人にご参加いただくことで、一層有意義な大会に発展させていければと考えています。



## ■ 注目の時事

### 韓国政府 外国人観光客への税還付基準額引き上げ

(2016年7月28日「世宗総合ニュース」)

韓国政府は28日、「2016年税法改正案」を発表し外国人観光客の誘致支援策を打ち出した。

外国人を対象に付加価値税を還付する事後免税の基準額を1回200万ウォン(18万6000円)から500万ウォンに引き上げた。1店舗で複数の商品を購入した場合、1度の決済で500万ウォンまで還付されることになる。

事後免税は対象の販売店で商品を購入後、近くの還付窓口で付加価値税の還付を受け、出国する際に税関で対象の商品の搬出確認を受けるもの。以前は空港で税金が還付されていた。

2013年から市内で還付されるようになったことで、事後免税店の利用額は13年の7000億ウォンから昨年は2兆3000億ウォンへと急増した。

市内の還付窓口も8カ所から101カ所に増設された。

政府は事後免税基準額の引き上げで外国人の消費拡大を狙う。

また、外国人観光客が韓国の医療機関で美容整形手術を受けた場合に付加価値税を還付する制度を来年3月で終了する予定だったが、来年末まで延長する。

政府は、今年4月に施行した付加価値税還付制度により美容整形関連の医療機関と違法ブローカーとの取引が減ったことで市場の健全化が進んだと評価した。医療機関の課税標準が改善する効果もあったため制度の延長を決めたという。

ほかに、政府は市中免税店(空港型免税店)を新たに6カ所設置する計画だ。

外国人観光客の誘致にはやはり、直接的なインセンティブが効果的と言うことでしょうか。その効果が一過性のものではなく、リピーター獲得に繋がられるようにするには、来てくれた方の期待以上のサービスを提供できる誘客体制の整備（ハード面・ソフト面共に）が必要だと思います。茨城県にお越しいただいた方に「また来たい!」と思っていただけるよう、良い思い出づくりのサポートができればと思います。そしてそのために、どんなサービスが必要なのか、私なりに考えていきたいと思っています。

### 朴大統領「韓日関係、未来志向的に新たに築くべき」＝光復節71周年記念式典

(2016年8月15日「朝鮮日報」)

朴槿恵（パク・クネ）大統領は15日、光復節（日本の植民地支配からの解放を記念する日）71周年記念式典のあいさつで、「韓日関係も歴史を直視する中で未来志向的な関係へと新たに築いていくべきだろう」と述べた。これに伴い、朴大統領と安倍晋三首相による韓日首脳会談など具体的な措置が取られるかどうか注目される。

朴大統領は同式典のあいさつで「我々は韓半島（朝鮮半島）と北東アジアの平和繁栄の主演という責任感を持ち、周辺国との関係を能動的かつ互恵的に導いていかなければならない」として、上記の通り語った。

そして、「昨今の国際情勢、特に北東アジア地域における安全保障地形の変化は、我々に嚴重な対応姿勢を要求している」「これまでよりも我々の戦略的思考と国家的力量の結集が切実になっている」と強調した。

その上で、「我々の運命が各強大国の力学関係によって決まるという被害意識や悲観的思考を捨てなければならない」とも述べた。

日本と韓国が、本当の意味で親しい「お隣さん」になれる日が来ることを切に願い、草の根の日韓交流を続けていきたいと思っています。